

会 議 録

1 会議名

第5回大潟区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

・協議事項（公開）

（1）諮問案件における書面審議について

（2）審議依頼について

・その他（公開）

3 開催日時

令和2年8月27日（木）午後6時30分から午後7時40分まで

4 開催場所

大潟コミュニティプラザ 2階 大会議室

5 傍聴人の数

4人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：五十嵐郁代、五十嵐公子、金澤信夫、君波豊（会長）、佐藤忠治（副会長）

新保輝松、関清、土屋郁夫、中野幹根、濁川清夏、俵木一松、俵木晴之、

細井雅明、山岸敏幸（14名中14名出席）

・こども課：宮崎課長、八木副課長

・事務局：大潟区総合事務所 熊木所長、柳澤次長（総務・地域振興グループ長兼務）、

平山市民生活・福祉グループ長、渡邊教育・文化グループ長、岩片班長、水

澤主任（以下グループ長はG長と表記）

8 発言の内容（要旨）

【柳澤次長】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の

出席を確認、会議の成立を報告。

【君波豊会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：新保輝松委員に依頼

【君波豊会長】

それでは、3報告事項に入る。大潟児童館の今後の方向性について、市から説明を願う。

【宮崎課長】

資料No.1により説明。

【君波豊会長】

意見、質問はあるか。

【関清委員】

児童館事業を休止するとはどういうことなのか。説明を受けたがよく分からない。

【宮崎課長】

児童館の建物の中に、児童館の機能と放課後児童クラブの機能の2つがある。子どもの遊び場である児童館は、利用がまったくない状況であり休止させていただき、放課後児童クラブのスペースを広くとって運営していきたいということである。

【熊木所長】

児童館とはまっこ保育園のパンフレットのコピーを資料として配布しており、図面が掲載されている。大潟児童館を見ていただくと、右側に児童クラブ室が2部屋ある。その他の部分が児童館となる。先ほど説明があったが、最近では児童館の利用が少なく、放課後児童クラブの利用が増えてきている。

【君波豊会長】

他にあるか。

【佐藤忠治副会長】

放課後児童クラブは知られているが、児童館はあまり知られていない。上越市全体で児童館はどこにあるのか。

【宮崎課長】

市内に6か所ある。大潟区から近いところで南川児童館があった。南川児童館も放課

後児童クラブが併設されていた。放課後児童クラブの移転に伴い、ほとんど利用のなかった児童館は休止とさせていただいた。他に、高志児童館、富岡児童館、諏訪児童館、名立児童館がある。

【佐藤忠治副会長】

南川児童館は休止しているが、その他はそのまま維持されるのか。

【宮崎課長】

高志児童館と富岡児童館は、休止の方向で説明をさせていただいている。この2つの児童館も放課後児童クラブが併設されている。また、「子育てひろば」という保育園に入る前のお子さんが遊ぶ場も併設している。新型コロナウイルスの感染防止の観点からも、放課後児童クラブのスペースを広くとるため、利用の少ない児童館については休止の方向で進めている。

【君波豊会長】

他にあるか。

【関清委員】

減少は、ニーズがないと考えてよろしいか。

【宮崎課長】

放課後児童クラブの利用者が非常に増えている。安全面を考えて保護者は放課後児童クラブに預けている。その一方、子どもの減少に伴い、児童館を利用する子どもが減っている。

【関清委員】

本当にニーズがないのか。児童館を知らないということはないか。積極的な利用の呼び掛けや活動事例の紹介などをしたうえで、ニーズがないと判断したと理解していいか。

【宮崎課長】

これまでも児童館の事業としてイベント等を実施していた。しかし、利用は減っている。他の児童館も同じような状況である。

【君波豊会長】

先ほど説明のあった他の児童館も大潟児童館と同じような状況なのだと思う。私は、朝夕に子どもの見守り活動をしているが、登校していった子どもが下校時に3分の2から半分くらいに減っているのは、放課後児童クラブの利用が多いのだと思う。大潟と同

じように休止の方向で進めている児童館は、放課後児童クラブの利用率が増えているという解釈でよいか。

【宮崎課長】

そのとおりである。共働き世帯や核家族が多くなり、安全、安心に預けられる放課後児童クラブの利用が増えている状況である。

【君波豊会長】

他にあるか。

(一同無し)

今後、こども課は放課後児童クラブを利用されている保護者の方などの意見を聞く機会を設けるということである。その結果が出たら聞かせていただきたい。

(こども課退出)

それでは4協議事項「自主審議に係る提案について」に入る。前回の地域協議会終了後、提案された内容についていくつかの団体に意見を聞いてきたので報告する。1つのサイトに大潟区内の情報がすべて網羅され掲載されていて、そこを見ればいつでも情報を入手できるようなものを作成してはどうかという提案が出ていることを伝え、そういうサイトの必要性や地域協議会で自主的審議事項として取り上げるかどうかを検討していることを話した。反応としては、「いい提案だ。」「あれば便利だ。」というものであったが、「どこで、誰が作成、運営するのか。」という声が多かった。また、「個人を含め各団体がホームページ等を持っている中で、そういったサイトを必要としているユーザーがいるのか。」と質問された。また、「核になる団体からサイトを作成してもらい、地域協議会を含めた各団体がそこに情報を入れる。その核になる団体が、名乗りを上げてくれればいいが。」といった声もあった。また、「入力作業など運営上の人員や労力、双方向の意見交換に対して、世間で騒がれている攻撃的、批判的な意見や誹謗中傷をチェックする人員も必要となるのではないか。」という意見もあった。そういった点を踏まえ「今うちで実施するのは難しい。」という意見がほとんどであった。私もインターネット等に対する知識が乏しいため、質問等に対して上手く回答ができなかった。「いい案だが、誰がやるのか。」となると、そこで話が止まってしまう。細井委員が、例えばまちづくり大潟がコアになってという発言をされていたが、その後、具体的な話が進んでいけば紹介していただき、その後、皆さんの意見をお聞きしたい。

【細井雅明委員】

早急にそういったものを作るということではない。今は、情報は広報紙など紙であるが、今後はインターネットやスマホで情報収集する機会が増えてくる。そういったときに情報の共有という意味で考えていったらどうかという長期的なスタンスである。今年とかではなく在任期間の4年くらいをかけて、例えばこのメンバーの中でその気持ちがある人が集まって協議し、他団体等を含めてディスカッションしていくなど長期的な形で考えてみたらどうかと提案した。今の状況からみると、まちづくり大潟が実施できるのではないかと話をさせていただいた。

【君波豊会長】

今すぐにとということではないとのことだが、話を聞いた団体からも「新型コロナウイルスが落ち着けば、団体同士が話し合う場も作られるだろうから、そういった場で話を出してお互いに研究しあえばいいのではないか。」「これから時間をかけて、各団体との話し合いをする中で、核となる団体が手を挙げてくれれば、そこに依頼してサイトを作っていけばいいのではないか。」という意見もあった。

【土屋郁夫委員】

高田で開催された、議員との意見交換会について話をさせていただく。若い人から、「上越市のビジョンがまったく見えなくて非常に残念である。」という意見があった。若い人たちは、市のビジョンや動きをあまり知らないのではないかと感じている。地域協議会委員の中には、普段から問題意識をもって取り組まれている方もいるので、上越市の課題や将来どうしていけばいいのか考えておられると思う。細井委員の意見のように、ほかの団体も含めて、どのような情報が必要なのかの議論から始めるのがいいと思う。議員との意見交換会に参加していた若い人が、「仕事が忙しくて市のことを知るチャンスがない。」と言っていた。上越市のホームページは非常にわかりにくい。検索ツールも役に立たないものである。あれでは駄目だ。会長が意見を聞いたのは年齢層が高いと思う。せっかくやるのであれば、若い人を巻き込んで、若い人の意見を中心に進めるべきだと私は感じている。

【君波豊会長】

他に意見はないか。

(一同無し)

自主的審議事項とするよりも、時間をかけて色々な団体と話し合う中で調査研究をしていくということを頭の隅に置きながら、各委員が身近な団体に意見を聞いて、機運が高まってきた時点でこの場で論議して再考したい。どこかの団体が手を挙げてくれればそこをお願いして立ち上げていただくということでやっていければと思う。当面の間、そんな考えでよろしいか。

【佐藤忠治副会長】

前期の地域協議会の大潟の魅力発信事業の中で、大潟の情報発信をどのようにやっているのかと、市のホームページの中の大潟区総合事務所の部分、まちづくり大潟、商工会、観光協会のホームページなどを確認した。それぞれ、自分たちの情報を出している。市のホームページには、観光や歴史について写真入りで掲載されている。しかし、あまり閲覧する人はいないのではないかと思う。まちづくり大潟のホームページもあまり更新がされていないが、行事案内や開催済みの行事の報告などが掲載されている。観光協会は、イベント案内や観光の見どころが掲載されている。各リンクをどのようにしているかまではわからない。前期の地域協議会で、市町村合併後の大潟区が埋もれてしまわないように大潟の魅力発見・発信事業に取り組み、DVDを作成してそれを利用してもらいたいという思いであった。お互いの活動情報をどこかが中心になって集め、大潟区全体の情報を網羅するために調べて研究して、どこかのホームページを使って充実していくことが必要だと思う。この件を自主的審議事項として今決定するか、もう少しいろいろな団体と協議した後に自主的審議事項にするかの採決をするかのどちらかであると考えている。

【君波豊会長】

調査研究を進め、お互いに各団体と情報交換して、その機運が出てきた時点で自主的審議事項として取り上げて、実現方向に向かって進めていくということでもよろしいか。この件を自主的審議事項として取り上げるか否かの決を取りたいと思うが、その必要はないということであれば、今言ったとおり、少し時間をかけてお互いに各団体の意見を聞くということで処理させていただきたいと思う。今回は、自主的審議事項として取り上げないことで良いと思う方は挙手願う。

(挙手多数)

では、今後も常に頭において情報収集していただきたいと思う。

5その他に入る。令和2年度大潟区地域支援事業の振り返りとして、今回の提案、審査等で感じたこと、改善点等について意見を伺いたい。

【柳澤次長】

今年度採択された地域活動支援事業は、補助金申請が提出され事業を実施中である。令和3年度地域活動支援事業の実施方法等については、改めて次回以降の地域協議会で取組方針を協議、決定していただきたい。本日は、皆様から意見交換を行っていただきたい。

【君波豊会長】

今日は、結論を出すということではない。新しい考え方で採点する等、例年の考え方を整理する。今後、提案団体にもアンケート調査を行う。その結果と合わせて、改善点等を検討して次年度以降の審査等に生かしていただきたい。

【細井雅明委員】

スケジュール的にいつまでに決定しなければならないのか。

【岩片班長】

例年では、11月の地域協議会でスケジュールや取組方針を協議している。2月に地域活動支援事業の成果報告会を実施しており、その中で翌年度の募集概要を説明しているので、1月ないし、2月には募集概要を固めて周知できるようにしておく必要がある。

【君波豊会長】

提出いただいた意見の中には、提案事業が地域活動支援事業としてマッチングしているのかというものもあった。平成25年度から令和元年度までの事例集を確認してみたが、大潟区の提案事業も遜色ないと感じた。土屋委員が以前質問された、ホームページ開設や運営に関する事業について特に注意して見た。最近の例だと、柿崎区では「副読本郷土柿崎のはぐくんだ人物」を電子書籍化した事業で、柿崎観光協会のホームページを使って閲覧可能にしている。清里区では、郷土芸能を伝承している姿と四季折々の風景を映像化し、DVDを各世帯に配布するとともに、ダイジェスト版を動画サイトに配信している。八千浦区では、海や砂浜などの自然環境や区内の行事等を、ドローンを活用し映像として残し、八千浦地区明るい町づくり協議会のホームページで情報発信している。

【五十嵐郁代委員】

申請書を受け取る時に、その内容を最初に確認するのは総合事務所の担当者である。その時に、大潟だけでなく他区にも支部があるとか、ほかの地域にも同じような団体があるといった場合に、大潟区だけで全額を補助するのではなく、全体的に団体丸ごとで補助するという形で、他に同じような申請書が出ていれば、そこで整合性を合わせるということをできないのか。具体的に言うと、私が非常に気になっていたのが防災士会の提案である。防災士会は、何年も続けて補助金を交付している。上越市防災士会があると思うので、例えばそこに補助をして、そこから支部に分けたり、貸し借りをすれば、ひとつの区が高い金額を補助しなくて済むと思う。そういったことを、申請書を受け取ってから、委員が審査をするまでの間にある程度の日数があるので、うまくできないのか。全体としてそう対応できれば、額としてもうまくできるのではないかと感じた。

【熊木所長】

今のお話だと、単発補助ということだと思うが、今、補助金自体を見直ししているところであり、新たな補助制度を作ることは非常に難しい状況にある。

【五十嵐郁代委員】

しかし他区の事例を見ると、同じような金額とか同じような備品を申請しているところもある。何年か連続して申請を出しているところもあるわけだ。消耗品であれば仕方ないが、ある程度耐用年数があるものに限って言えば、貸し借りができるものがある。そういったものを連絡、連携を取る中で、団体に伝え、お願いすることを行政の窓口として言えないのかと感じた。

【岩片班長】

受付の段階で、市として何か言えないかということだが、補助金要綱や条例など大本の部分で定められていることに反するような場合には、「これは対象外になる。」と言うことはできる。ただ、要綱の中で申請することを妨げるものではないので、事務局で判断をして「これは違うのではないか。」ということとは基本的には無いと考える。今回は特殊な事情で、時間が短すぎたのではないかという意見もあったが、次年度以降の中で、今のご意見をプレゼンテーションの場で確認をするなどをしていただきたい。審査するのは地域協議会委員である。

【五十嵐郁代委員】

了解した。

【細井雅明委員】

私は、地域活動支援事業の審査が地域協議会委員の一番の仕事だと思っていた。残念ながら、十分に内容を理解して審査できたかという不安な部分がある。募集要項や補助額に上限がないなどの内容が、区によって違うことも理解する間もなく審査してしまったと感じている。私は、感じたことを箇条書きにして書き出した。今までの募集内容を継続していくこともあるが、本当にそれでいいのかを今期の委員で検討する必要があると思う。

【土屋郁夫委員】

委員の任期と地域活動支援事業の審査のタイミングが良くないと思う。何も知らない委員が、前期委員の決めたルールに則って審査することになっている。委員の任期そのものを変えなければ、どの区でも新人の委員が悩む。2年目からはいいが、改選の年はまた同じように苦しむと思う。私は、委員の任期そのものを見直すことを市に要望したい。

【君波豊会長】

委員の任期を見直すのか。

【土屋郁夫委員】

任期は4月からになっていると思うが、それを例えば10月末までにして改選をすれば、そこで勉強会なりでじっくり地域協議会について何回か会議ができる。1月か2月までに地域活動支援事業の募集要項を決めておけばすっきりいく。

【君波豊会長】

他にあるか。

(一同無し)

では、他の委員の意見も参考にして改善点等を整理しておいていただきたい。次年度以降の取組み方針等を直すべきものは直して、審査しやすい体制にしていきたい。

【佐藤忠治副会長】

私は、委員を4期務めてきたが、こんなに委員が入れ替わったのは初めてである。初めての委員は迷うと思う。私も初めての時は迷った。その都度、委員で改善点を出し合

って今の体制になっている。大潟の良いところは、勉強会を行い提案事業について委員同士で自由な討論を行う中で提案団体への質問事項を決めるところと、プレゼンテーションを実施して提案団体の思いを直接聞くところだと思う。あと、同じ団体の同一事業は3回までとしている所である。同じ団体への同じ事業には、長期に継続して補助金を出す必要はないのではないかとということである。そもそも活動を支援するものであって、本来は自力でやっていくものであり、市の公金を特定の団体だけに使うのは問題であると私は考える。最近の提案は、団体の持ち出しが無い。それについては、憤りすら感じる。これまでは、そのような提案はあまりなかった。持ち出しが無く、全額補助というのは問題だと思う。市の財政が苦しい中で支援事業を行っている。3分の1くらいは団体が負担して、足りない部分を補助してほしいという姿勢でないと長続きしないと思う。

【君波豊会長】

この件はこれで終了する。委員から連絡事項等はあるか。

(一同無し)

事務局から連絡事項等はあるか。

【柳澤次長】

第6回地域協議会の開催日は、9月24日午後6時30分からとしたいがいかがか。

(一同了承)

【佐藤忠治副会長】

会議の閉会を宣言

9 問合せ先

大潟区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL : 025-534-2111 (内線 201、216)

E-mail : ogata-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。